

第9回愛媛大学医学部同窓会東日本支部総会 報告



第9回愛媛大学医学部同窓会東日本支部総会は、平成23年1月22日に表参道パソナ倶楽部において9期生主催で開催されました。本会員は350名に達し、今回の参加者は44名でした。

総会では、総合司会のデンマーク国立オーフブ大学脳神経病態生理学研究所(9期生) 酒向正春客員教授より会計報告の後、愛媛大学高田清式教授からの愛媛大学医学部のスライド便りが紹介されました。

学術講演では、埼玉医科大学総合医療センター整形外科(9期生) 平岡久志准教授より「前十字靭帯の治療の変遷」が語られ、聖マリアンナ医大脳卒中科(9期生) 植田敏浩教授より「頭を切らない脳外科手術の進歩：メスを置いた脳外科医より」を勉強させて頂きました。特別講演では、スポーツジャーナリストの二宮清純氏から「勝者からのメッセージ」を野茂投手の生き様を通してお話し頂きました。どの業界もトップの考えや行動は通じており、技術を盗む努力の必要性を説かれました。医療だけでなく、プロの世界でも「プロフェッショナルを盗む」学習力が低下しているそうです。

その後は懇親会。会場の(株)パソナの南部代表よりワインのプレゼントがあり、豊富な料理、飲物を楽しみました。集合記念撮影の後に、参加者全員よりショートスピーチを頂き、あっという間の2時間半でした。年に1度、昔の仲間と美味しいお酒が飲めるのは幸いです。来年は、さらに、多くの同窓生が参加されることを楽しみにして、10期生にたすきをつなぎました。(文責 酒向正春)

第10回愛媛大学医学部同窓会東日本支部総会 報告

2012年1月28日(土)、今回は第10回の節目ということで、いつもと形式を変え着席にて食事を楽しみながら講演を拝聴するスタイルでした。

まず、高田清式先生をお招きし「愛媛大学だより」として現在の愛媛大学の状況にご紹介頂きました。自分たちが利用していた施設がリニューアルされるなど最新の情報が多く興味深いものでした。

また、今回8期生の坂井晃先生が福島県立医大 放射線生命科学講座の教授に就任されたとのことで一言ご挨拶を頂戴しました。

教育講演としましては、10期生筑波大学医学医療系臨床医学域(臨床医学系 神経内科) 准教授の石井一弘先生より「茨城県神栖市の有機ヒ素化合物中毒について」のタイトルでご自分が近隣のヒ素化合物中毒を発見し解明していくまでの経験談をお話頂きました。

その後、1期生の吉田謙一先生が今回で同窓会会長をご卒業されるとのことで、卒業講演「心臓突然死、診療関連死とともに」と題して講演頂きました。吉田先生の大変興味深い研究内容を皆食い入るように拝聴していました。

最後には、次回幹事の11期生三瀬先生、小野里先生、渡辺先生より来年の意気込みを頂き、終了を迎えました。皆、名残惜しいのか、会終了後も先輩・後輩・同期生と話しこむ姿が多く見られました。会自体は大変スムーズに進み安心致しました。今総会が同窓生の親睦、情報交換の場となってくれたことと思います。(文責 北原比呂人)



第9回愛媛大学医学部同窓会九州支部総会 報告

本年も、平成24年7月28日(土)、九州支部会総会を、例年のごとく、博多都ホテルにて21名の参加で執り行うことが出来ました。

今年は第9回を数え、13期生の山中雅文先生に「冠攣縮性狭心症と遺伝子解析」のテーマで御講演頂きました。

要旨は、「私たちは冠攣縮性狭心症症例において一酸化窒素合成酵素遺伝子に-786T→C変異を見出し、その遺伝子変異の特徴は、冠動脈に狭窄のない心筋梗塞患者に多く認め、また、冠攣縮重症症例に多く認められました。

また、-786T→C変異があるとReplication Protein A1という因子が結合し、転写活性を抑制することを明らかにしました。今後はこの遺伝子解析にも続いた一酸化窒素合成酵素誘導薬の製法などに携わってゆきたい。」というものでした。専門外の人には少し難解であったかなという私の印象でした。その後は乾杯から会食、自己紹介で一次会の終了、引き続きの二次会と盛り上がりました。昨年まで体調を崩され欠席が続いた薬理の小川暢也先生が復活、お元気になられ3年ぶりの参加が見られ皆でほっとしたものでした。

来年は第10回となるために、一期生のホープ東大法医学教授の吉田謙一先生を演者に招き、記念すべき節目の支部会とすべく張り切っています。日付けは7月27日(土)と既に決定しておりますし、吉田先生の出席も快諾済みです。九州の同窓生の皆様、奮って御参加下さい。30名参加を目標にしていますのでよろしく!

(文責 九州支部長 西口昭弘)

